



## 二日町大神楽

江戸時代中頃にはすでに奉納されていた八幡神社神楽と曰吉神社神楽を合わせたのが『二日町大神楽』である。役者総勢 130 人を超える練行列が祭礼を飾る。

曲目は、道行曲として「道行」「大道行」「大道行色付き」「帰り岡崎」「ひゃぐひゃぐ」。獅子舞曲は「山の入」「大神楽」「後林」「岡崎」「吹きまぜ」「踊りこしめ」「大神楽色付き」が数えられる。

奴の練りは、「子供ドッコイシ」43 人、「ドッコイシ」1 人の掛け声に合わせて、「上長刀」12 人、「上奴」15 人、「先奴」15 人、「下長刀」13 人、「下奴」15 人が調子を揃える。

◆「大道行色付き」に合わせ、獅子と鼻高面が赤い「毛ぐら」をめぐってやりとりする。拝殿正面の場面で、最高顔に達する。

◆「ババ面」衆が境内になだれ込んでくる。場内整理の役割であるが、滑稽な所作が面白い。

◆「大神楽」に合わせ、神楽打ちとさざらが替わるがわるの曲芸「水車」を披露する。「踊りこしめ」で神楽子役と鼻高面 4 人が神楽台前で優雅に舞う。他では見られない二日町大神楽の特色である。

◆「帰り岡崎」で退場。獅子、鼻高面らの名残惜しげな表情が心を打つ。大神楽の終盤を飾る名場面である。

## 八幡踊り

古くは戦勝祝いとして踊られていた八幡踊りはその後、五穀豊穡を喜び神に感謝するために踊るようになったといわれている。二日町への伝来は明らかでないが長滝寺古記録には、江戸時代享和 2 年(1802)には、すでに踊っていたことが記されている。市内でも数少ない奴踊りで、市重要無形民俗文化財に指定されている。

奴 30 余人が、練り曲に合わせ面手を大きく広げて舞う。トンビが空に輪を描く様から「とんび踊り」と呼ばれている。子供ドッコイシが先頭を飾る。笛曲「さがりは」につづき、歌に合わせて踊り、「しゃぎり」曲で終える。

### <歌 句>

八幡踊り 国も豊かに治まりた  
前田の濃でも 加賀の御城下は広ござる  
ドンドと鳴るは 上田や前田の寄せ太鼓  
稲穂がゆれる 風は見えねとおおじきする  
若松様よ 枝も栄える葉も茂る

◇

丹波与作は馬追いなれど  
今は世に出て刀さす  
今年世のなか穂に穂が下がる  
杓はとり置き箕で計る  
前にそびゆる仏の岩は  
美濃の名所の霧返し

